

「進学総研マーケットレポート2022」

【全国版】

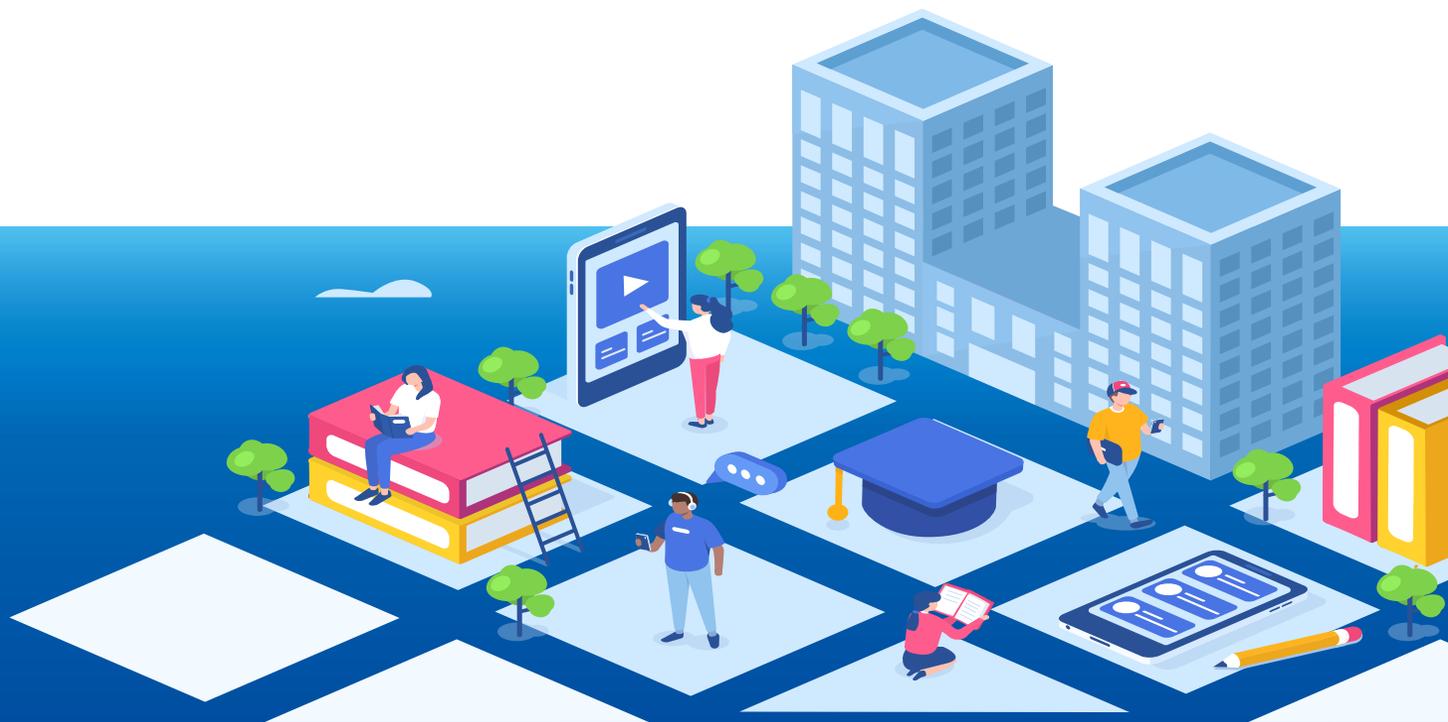
リクルート進学総研 研究員

飯島隆介



本動画の目的

『リクルート進学総研』では、文部科学省「学校基本調査」を基に、全国の18歳人口や進学率、残留率の推移を毎年まとめている。本動画では、2022年12月に公表された「令和4年度学校基本調査」を基に分析した「マーケットレポート2022～全国版～」について解説する。



■ アジェンダ

データ元・分析について

分析結果

考察

「マーケットリポート2022」 ～データ元・分析について～

データ元：文部科学省「令和4年度学校基本調査（確定値）※」

- ① 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口 = 3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数
 - ・ 中学校卒業者数 = 高校生 + フリーター + 就職者 全て含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短大・専修学校専門課程（専門学校））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制 + 中等教育学校後期課程）で算出した。
- ⑤ 図表で利用している百分率（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため、四捨五入の結果で数値の和が100.0にならない場合がある。
- ⑥ 残留率とは、自県内（地元）の大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の入学者数の割合。（浪人含）
- ⑦ エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下の通り。
 - 北海道 : 北海道
 - 東北 : 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
 - 北関東 : 茨城、栃木、群馬
 - 南関東 : 埼玉、千葉、東京、神奈川
 - 甲信越 : 新潟、山梨、長野
 - 北陸 : 富山、石川、福井
 - 東海 : 岐阜、静岡、愛知、三重
 - 近畿 : 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
 - 中国 : 鳥取、島根、岡山、広島、山口
 - 四国 : 徳島、香川、愛媛、高知
 - 九州沖縄 : 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

※文部科学省「令和4年度学校基本調査（確定値）」
学校基本調査 - 令和4年度 結果の概要 - : 文部科学省 ([mext.go.jp](https://www.mext.go.jp))

■ アジェンダ

データ元・分析について

分析結果

考察

<18歳人口予測>

2022年112.1万人から2034年には100.6万人で
11.5万人減少。男女はいずれも減少トレンドで推移。

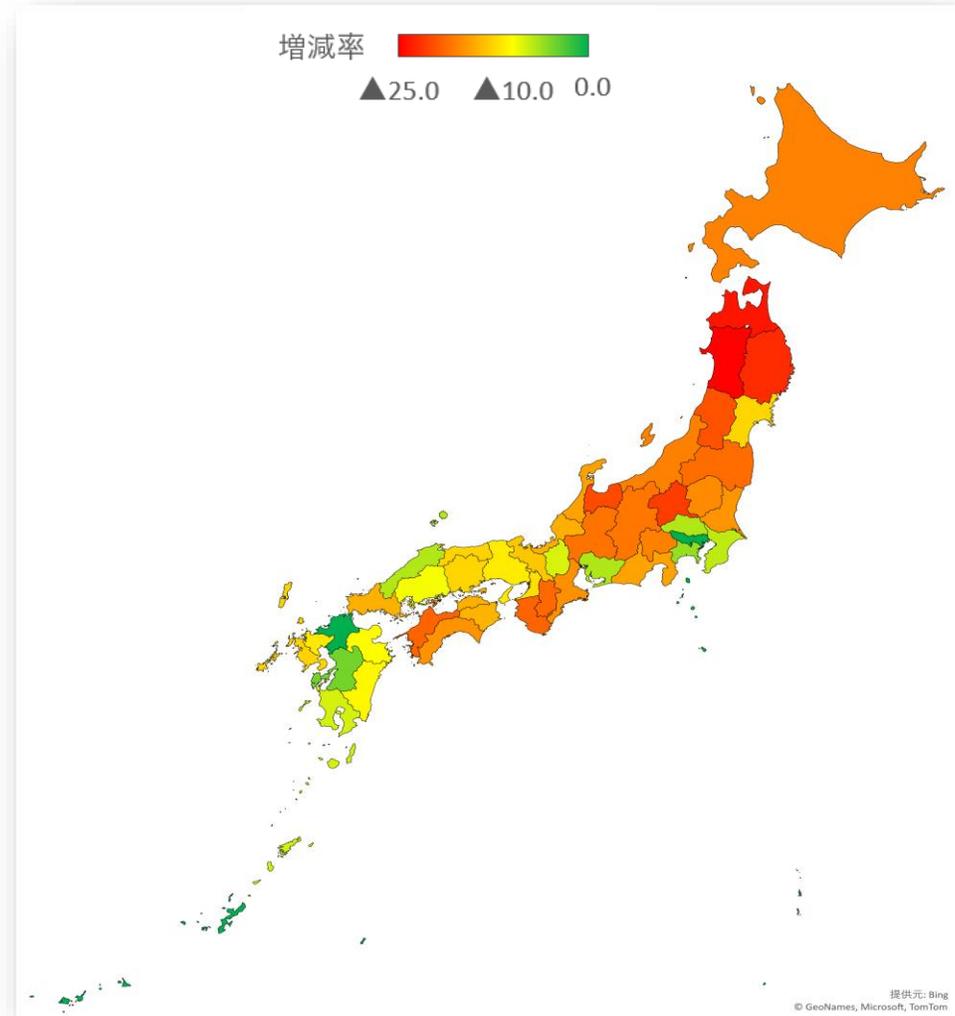
<データポイント>

①47都道府県中35道府県とほとんどで
減少率10%を超える。

②エリア別
減少率1位は東北（22年比▲19.1%）
減少数1位は近畿（22年比▲2.3万人）。

③一方、増加したのは
沖縄（+5.3%）
東京（+2.6%）
福岡（+0.2%）の3県のみ。

<都道府県別 18歳増減率マップ（2022年-2034年）>



現役生の進学率は大学55.3%、短大3.7%、専門学校16.7%。4人に3人は現役で進学。

<データポイント>

① 過去10年の進学率推移

大学 + 7.9ポイント

短大 ▲ 1.7ポイント

専門学校 ▲ 0.3ポイントで、

大学進学率のみ上昇しており、22年短大進学率は4%をきった。

② 進学率のばらつきは未だ大きい。

・最上位

大学進学率 東京 (69.8%)

短大進学率 大分 (7.2%)

専門学校進学率 新潟 (26.8%)

・最下位

大学進学率 鹿児島 (36.1%)

短大進学率 東京 (1.6%)

専門学校進学率 東京 (10.9%)

<大学・短期大学・専門学校への現役生進学率（都道府県別）>

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	富山	石川	福井	岐阜	静岡	愛知	三重
	東北					北関東			南関東			甲信越			北陸			東海						
大学+短大+専門学校 ・計	72.9	66.8	67.2	71.1	65.3	67.9	65.6	73.7	74.0	76.1	81.0	80.4	82.3	82.5	77.7	78.8	74.5	73.6	74.2	74.5	73.7	72.4	75.3	68.4
大学	46.4	45.8	40.8	49.5	41.4	43.6	42.8	52.8	50.7	52.7	59.4	58.4	69.8	63.2	47.2	55.0	46.5	48.9	54.1	54.7	53.3	52.3	58.5	48.6
短大	3.7	4.8	4.9	4.2	6.6	5.1	5.3	2.2	4.0	4.2	3.6	2.8	1.6	2.8	3.7	4.4	7.0	6.9	5.8	4.5	5.7	3.3	3.0	4.5
専門学校	22.8	16.2	21.5	17.4	17.3	19.2	17.5	18.7	19.3	19.2	18.0	19.2	10.9	16.5	26.8	19.4	21.0	17.8	14.3	15.3	14.7	16.8	13.8	15.3
	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
	近畿					中国				四国				九州沖縄										
大学+短大+専門学校 ・計	75.9	84.2	81.2	78.7	75.5	72.3	66.5	71.6	73.2	76.5	61.9	73.4	72.8	74.7	66.0	73.3	63.0	64.1	65.1	69.6	62.7	64.4	70.2	
大学	54.7	67.2	62.1	62.5	58.8	51.4	40.8	44.7	50.1	60.6	39.9	53.7	50.7	52.2	47.8	51.3	41.5	43.4	43.1	41.0	40.4	36.1	41.1	
短大	4.7	3.8	4.3	3.3	4.2	4.3	6.6	3.9	4.1	3.0	4.8	3.4	4.3	4.2	3.8	4.6	4.2	4.3	3.2	7.2	4.3	6.5	3.2	
専門学校	16.5	13.2	14.8	12.9	12.5	16.6	19.1	23.0	19.0	12.9	17.2	16.3	17.8	18.3	14.4	17.4	17.3	16.4	18.8	21.4	18.0	21.8	25.9	

※各項目ごとに最上位：赤字下線、最下位：青地下線

＜データポイント＞

①“象限④”（18歳人口減少率が高く地元残留率が低い）に35県と多くの県がポジショニング

②全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下の通りになる。

・象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い

：東京、愛知、広島、福岡、熊本

→人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。

・象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率も高い

：北海道、宮城、石川、大阪、京都、兵庫

→18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。

・象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い

：神奈川、千葉、埼玉、滋賀、島根、大分、鹿児島、沖縄

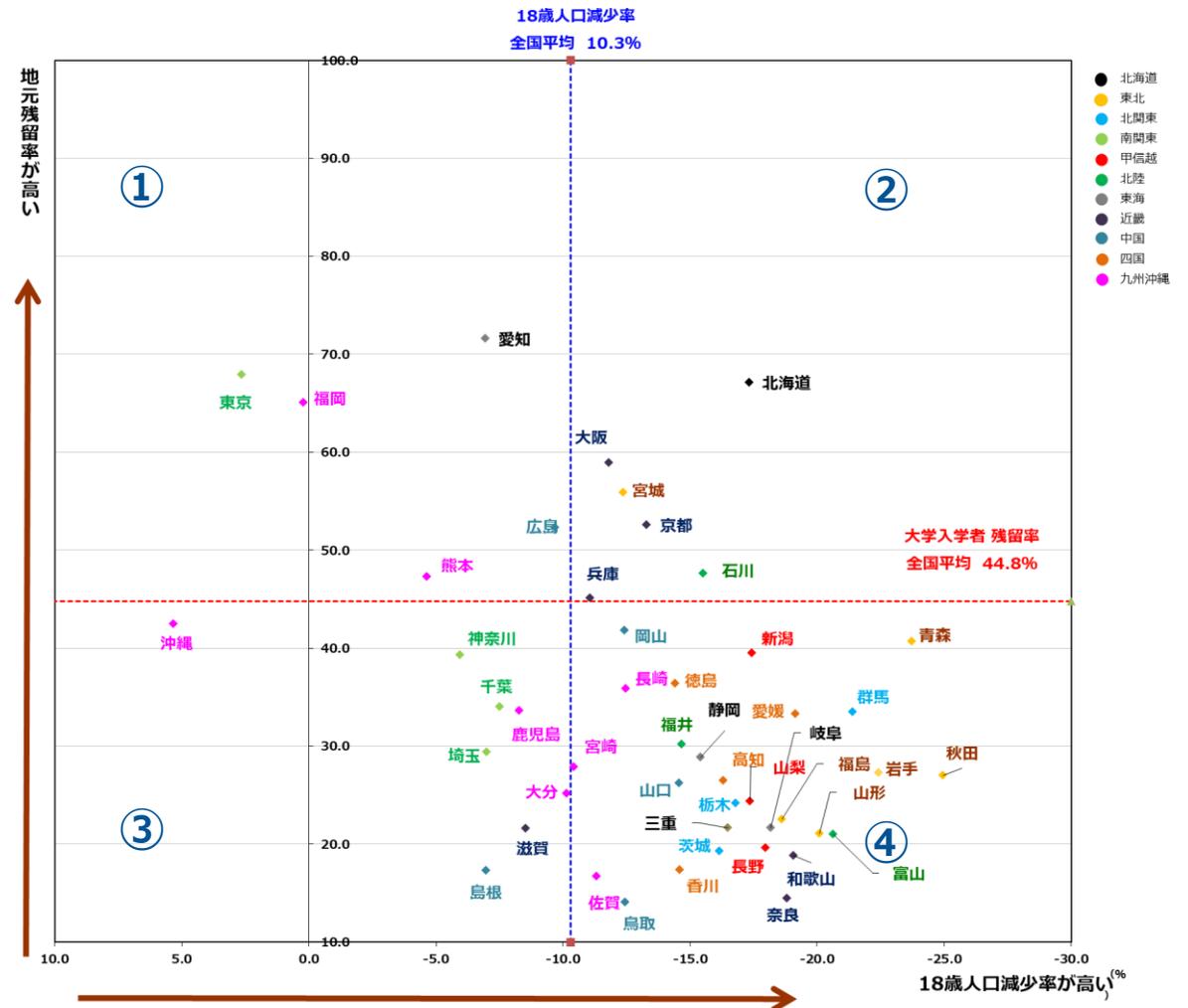
→人口は大きくは減少しないが、周辺県への流出が多いセグメント。

・象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い

：その他の県

→人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。

＜18歳人口減少率×大学進学者の地元残留率（都道府県別）＞



■ アジェンダ

データ元・分析について

分析結果

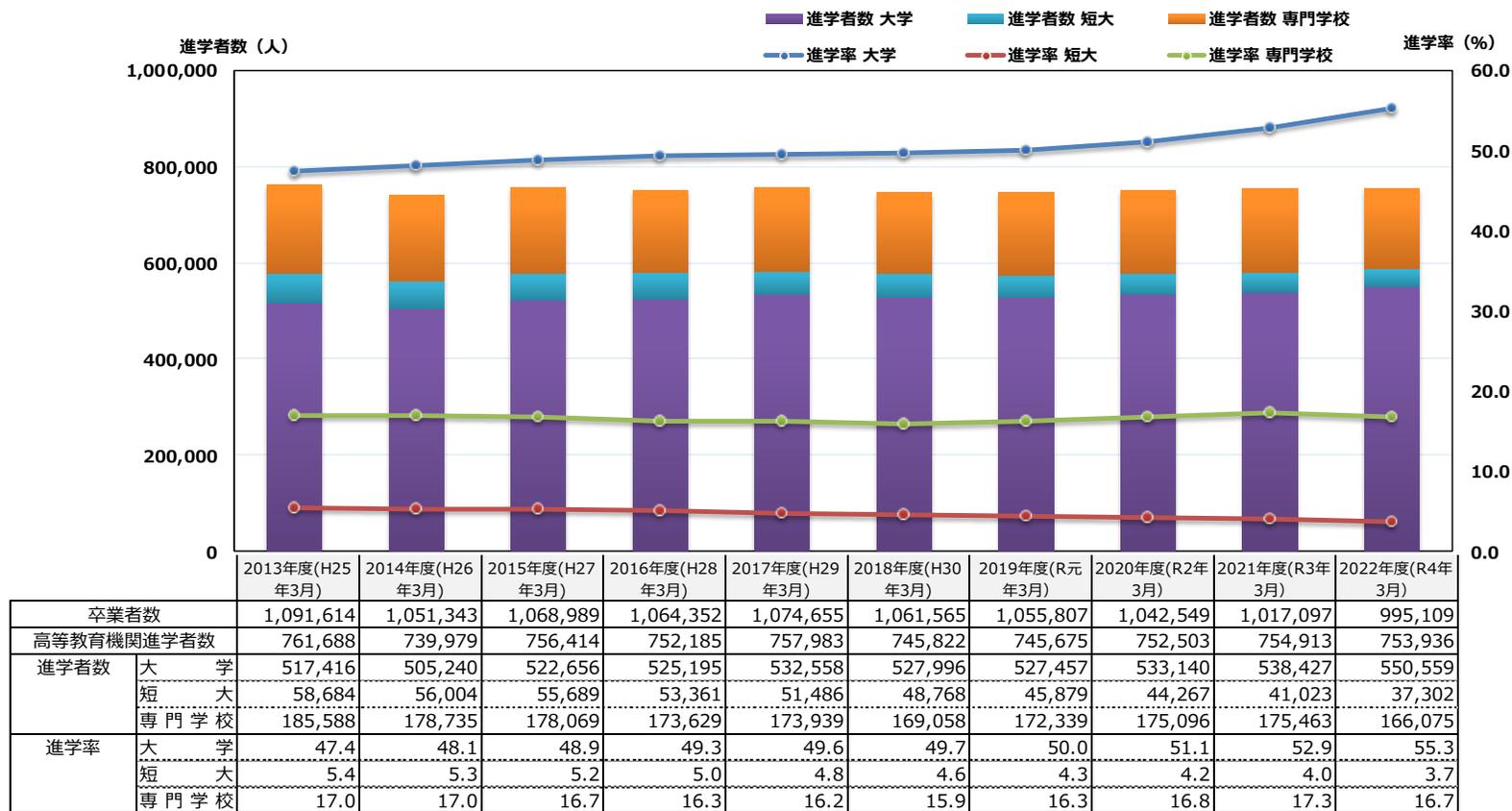
考察

18歳人口減少の中、高等教育機関への進学者数は過去10年でみると75万人前後を推移。

<ポイント>

□ 大学進学率の上昇を背景に、高等教育機関への進学者数は過去10年ほぼ同推移。

18歳人口減少 & 短大・専門学校進学率は減少トレンドの中、大学進学率の上昇により、高等教育機関への進学者数は75万人前後を過去10年維持しており、高止まりの様相を見せている。今後、大学進学率上昇がなければ、いよいよ進学者数減少が18歳人口減少と同トレンドで押し寄せることとなる。



考察②

エリア別に見ると、高等教育機関への進学率は最大22.3ポイントのギャップが生じている。

<ポイント>

□ エリアごとに18歳人口減少率、高等教育機関進学率、地元残留率などマーケット状況は異なる。

例えば、都道府県別の高等教育機関進学率（大学＋短大＋専門学校・計進学率）のトップは京都で84.2%、最下位の山口は61.9%で、その差は22.3ポイント。

		(%)																							
		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	富山	石川	福井	岐阜	静岡	愛知	三重
		東北					北関東				南関東			甲信越			北陸			東海					
大学+短大+専門学校	・計 (高等教育機関進学率)	72.9	66.8	67.2	71.1	65.3	67.9	65.6	73.7	74.0	76.1	81.0	80.4	82.3	82.5	77.7	78.8	74.5	73.6	74.2	74.5	73.7	72.4	75.3	68.4
	大学	46.4	45.8	40.8	49.5	41.4	43.6	42.8	52.8	50.7	52.7	59.4	58.4	69.8	63.2	47.2	55.0	46.5	48.9	54.1	54.7	53.3	52.3	58.5	48.6
	短大	3.7	4.8	4.9	4.2	6.6	5.1	5.3	2.2	4.0	4.2	3.6	2.8	1.6	2.8	3.7	4.4	7.0	6.9	5.8	4.5	5.7	3.3	3.0	4.5
	専門学校	22.8	16.2	21.5	17.4	17.3	19.2	17.5	18.7	19.3	19.2	18.0	19.2	10.9	16.5	26.8	19.4	21.0	17.8	14.3	15.3	14.7	16.8	13.8	15.3
		滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
		近畿					中国					四国				九州沖縄									
大学+短大+専門学校	・計 (高等教育機関進学率)	75.9	84.2	81.2	78.7	75.5	72.3	66.5	71.6	73.2	76.5	61.9	73.4	72.8	74.7	66.0	73.3	63.0	64.1	65.1	69.6	62.7	64.4	70.2	
	大学	54.7	67.2	62.1	62.5	58.8	51.4	40.8	44.7	50.1	60.6	39.9	53.7	50.7	52.2	47.8	51.3	41.5	43.4	43.1	41.0	40.4	36.1	41.1	
	短大	4.7	3.8	4.3	3.3	4.2	4.3	6.6	3.9	4.1	3.0	4.8	3.4	4.3	4.2	3.8	4.6	4.2	4.3	3.2	7.2	4.3	6.5	3.2	
	専門学校	16.5	13.2	14.8	12.9	12.5	16.6	19.1	23.0	19.0	12.9	17.2	16.3	17.8	18.3	14.4	17.4	17.3	16.4	18.8	21.4	18.0	21.8	25.9	

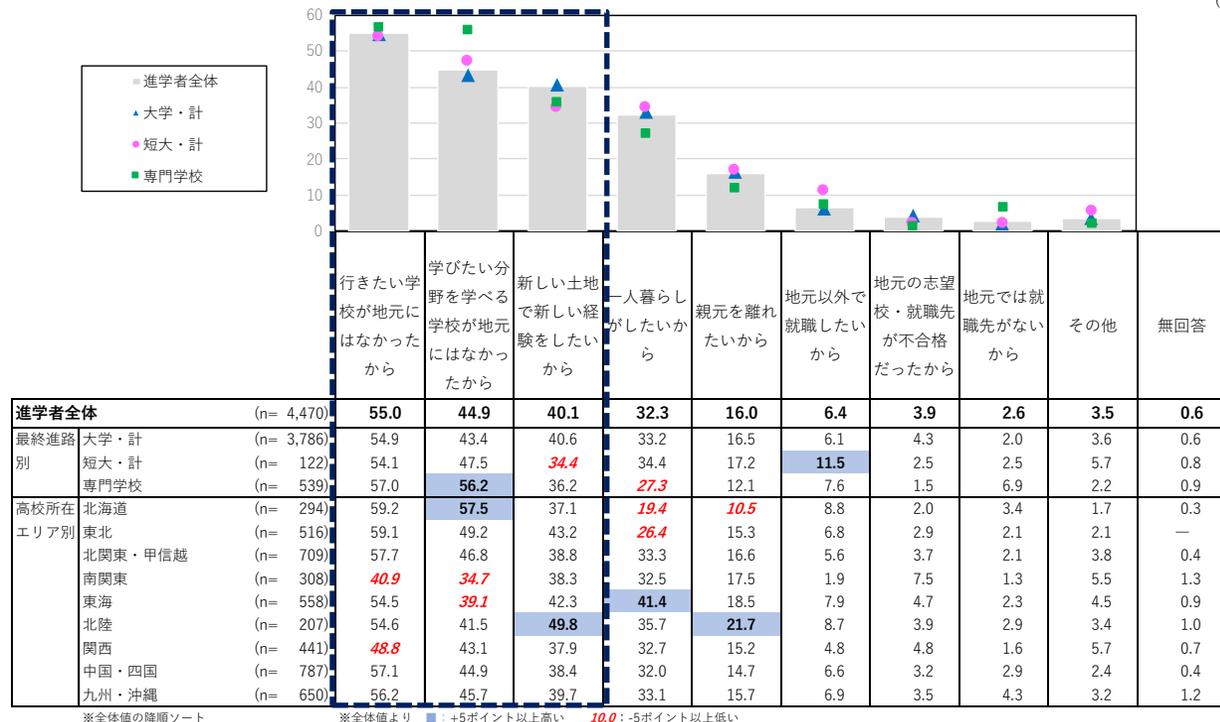
「地元残留」と「地元外流入」を高めるには
大学の個性を明確にし、オンリーワンの価値を最大化することがポイント。

<ポイント>

□ 地元以外に進学する理由は1位「行きたい学校が地元にはなかったから」(55.0%)、2位「学びたい分野を学べる学校が地元にはなかったから」(44.9%)、3位「新しい土地で新しい経験をしたいから」(40.1%) がトップ3を占める

募集環境が厳しい地方大学においては、その大学に通わなければ得られない学び・経験を明確にし、オンリーワン価値を最大化するとともに、魅力ある新しい大学・学部設置なども今後検討する必要があるのではないだろうか。

<地元以外（家から通えないエリア）に進学する理由（地元以外進学者/複数回答）※進学センサス2022より>



進学総研サイト内 総研レポートページのご案内

■ 掲載場所

画面上部バー「レポート・調査」

> 画面右側のボックス「調査カテゴリー一覧」

> 18歳人口・進学率・残留率の推移

■ 掲載物

全国版

エリア別レポート11版

北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州沖縄

※DLには情報入力が必要です

※個別DLのほか、まとめてDLできるボタンも設置しておりますので
全版必要な場合等にご活用下さい



東北エリア ダウンロード

全国版・都道府県別11エリア全てダウンロード



高校・大学の取り組み事例等はHPに掲載しています。
「リクルート進学総研」

リクルート進学総研

